

モンテディオ山形の快進撃が続いている。その理由の一つがこれではないかという記事を紹介します。

『モンテディオの応援は不要不急ではない。強いから応援するのではない、わたしたちが応援するから強くなる。』

今日(5月30日)のマッチデー
スポンサー、株式会社でん六
鈴木隆一社長の試合前の言葉、目頭が熱くなりました。
みなさんを元気づける存在で



あり続けるため、我々は前進を続けますと公式ツイッターに記されている。

ゲキサカの記事を一部抜粋

してご紹介します。クラブが試合後に公式ツイッターでこのコメントを紹介すると、瞬く間に拡散。山形の選手やスタッフ、ファン・サポーターだけでなく、他チームの選手も反応した。ジェフユナイテッド千葉のMF小島秀仁は「これは素晴らしい想い。他チームのこともただ感動しました」とツイート。「コロナ禍の中

でも、こういう想いで応援してくれてる人たちが自分達にも必ずいる。その人たちのために結果は勿論、それ以外の部分でも恩返しできることはあるはず」と感銘を受けた様子だった。

ツイッターを読んだ方々の

反応を紹介します。

・自社プレゼンツマッチだけ

でなく、ちゃんと試合に足を運ぶモンテ愛のある社長さんだと思えます。これからもよろしく。

・他サポですけど、でん六さんの株が爆上がりです……! こういうことを言ってくれるスポンサー、こういうことをいつももらえるようなクラブ。どちらも素晴らしい組織なのだと感じます。

・身が引き締まりますね。モンテディオのサポではないですが、私にも愛するチームがあります。そのチームの強さを願って、大いなる無償の愛情を注いでいこうと思えます。元氣出ましたありがとう。このような状況の中だからこそ、無くしてはいけない、大事にしなければならぬ人の心について語られた言葉だと思いました。

モンテディオ山形のさらなる前進を祈念しております。

年度末を迎えて

会長 渡辺英一郎

「果たして私にこの会の会長が務まるだろうか」という不安を抱えながらも、未熟な経営者である自分を育ててくれたことへの恩返しのためで拜命した会長職でした。新型コロナウイルス感染症が拡大する中で無我夢中で会の運営を行った1年でもありました。会員の皆様には様々なイベントの中止などご迷惑をおかけする結果となりました。しかし、その一方で急速なDXの浸透などにより新たな可能性も見出すことができました。倫理法人会の創立に尽力された滝口長太郎氏の「打つ手は常に無限であるからだ」という言葉を改めて思い知りました。お力添え頂きました



全ての会員の皆様へ心より感謝申し上げます。